

飛び出せ!! OKINAWA

# ヒト・モノ・企業のグッジョブ

沖縄を飛び出し、県外や海外で認められている  
ヒトやモノ・コト、企業のあふれる  
パワーをお届けします。

## 組踊



年間を通じて多くの組踊が上演される「国立劇場おきなわ」



今回のグッジョブは沖縄県が世界に誇る「伝統の組踊」です。



★

### 保持者と伝承者の役割、今後の課題

品。伝統組踊保存会では長い間上演の途絶えていた演目の中から毎年二作品を復活させ、国立劇場おきなわで上演し、県外での公演も行っていきます。「組踊には忠孝や節度など先人の教えが織り込まれ、見るだけで勉強になりますよ」と島袋さん。

伝統の組踊を守り伝える「保持者」は現在六十三名。昭和四十七年に組踊が国の重要無形文化財に指定されて以来、伝承者の育成も行われ、平成十七年度からは国立劇場おき

### 活躍する伝承者さん

伝統の組踊を支えるのは「日々の小さな積み重ね」

琉球舞踊宮城流教師  
伝統組踊 立方 宮城 茂雄 さん



若手組踊伝承者の宮城茂雄さんを紹介します!



「執心鐘入」の若松を演じる宮城さん

中学一年の時から本格的に組踊を学んでいます。芸能は無形なので師匠から習ったことがすべて。習いそびれるとその技はそこでなくなるため、伝統の重みと責任を感じます。組踊はアドリブが一切通用しません。県内外で年間二十回以上となる公演のため、稽古も台詞覚えなどの準備も大変ですが、師匠の教えを常に謙虚に受け止め、きちんと体得できるよう心がけています。

### 世界が認めた 沖縄の宝「伝統の組踊」

平成二十二年十一月十六日、沖縄県の組踊がユネスコの「無形文化遺産」に登録されました。組踊は琉球王朝時代に中国からの冊封使(ていほうし)を歓待するために作られた歌と踊り、そして唱えと呼ばれる台詞から構成された伝統的様式を持つ歌舞劇。一七一九年、当時の踊り奉行、玉城朝薫(たまぐすくちょうくん) 創作の「二童敵討(にごうてきうち)」「や」「執心鐘入(しゅうしんかねいり)」が上演されたのがはじまりといわれています。琉球王国の滅亡や沖縄戦による組踊消滅の危機も、実演家や伝承者、関係者の努力で乗り越えてきました。



伝統組踊保存会会長・国指定重要無形文化財「組踊」保持者 島袋光晴さん

伝統組踊保存会会長の島袋光晴さんは、「世界から評価されたのは本当にうれしいこと。ユネスコの

なわでも若手の優れた伝承者を育成する「組踊研修」を実施。現在、約三百人が伝統の技を受け継ぎます。島袋さんは「組踊は人間が創り上げる舞台芸術。生涯現役として取り組み、『県民共有の財産』として先人が伝承してきた素晴らしい宝石にさらに磨きをかけたい」と意欲的です。伝統を重んじる立場ですが、創作物への理解も。中高生向けの普及公演で組踊の裾野を広げ、舞台での字幕表示や解説、鑑賞の手引きなど初心者の理解を促す工夫も忘れません。「まずは劇場に足を運んでもらう、組踊をもっと身近に感じてもらうよう努力したい」と今後の抱負を語ります。



保持者から伝承者への口伝で受け継がれてきた組踊

### 組踊の特徴と 作品のテーマ

登録で組踊の良さを再認識し、誇りに思う県民が増えたと感じます。組踊を世界に発信できるチャンス」と喜びを語る一方で、「世界の注目が集まるだけに評価も厳しくなる」と慎重な対応の必要性も感じています。



本番さながらの舞台稽古(雪払い)では情景がうかんでくるよう

重要な文化遺産としてユネスコ無形文化遺産に登録されました。



世界から認められたポイント!

先に登録された六〇〇年の歴史の能、四〇〇年の歌舞伎に比べ、組踊は三〇〇年未満。「独特のしきたりや様式を重んじて伝統をしっかり守ってきた点、早期での世界遺産の登録につながったのではないかと」島袋さん。所作の一つひとつが踊りであり、音楽と踊り、琉歌と同じ八・八・八・六の台詞、物語が一体となった舞台芸術である点が最大の魅力で、今後は海外での公演も増えそうです。



二童敵討(玉城朝薫作)

★印の写真提供:国立劇場おきなわ